

令和8年第5回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

9月7日(月) 午前10時～

- | | | |
|---|------------|-------|
| 1 | 館 花 一 仁 議員 | (60分) |
| 2 | 湯 瀬 弘 充 議員 | (45分) |
| 3 | 宮 野 和 秀 議員 | (30分) |
| 4 | 松 村 託 磨 議員 | (30分) |
| 5 | 兎 澤 祐 一 議員 | (30分) |

9月8日(火) 午前10時～

- | | | |
|---|------------|-------|
| 6 | 赤 坂 勲 議員 | (30分) |
| 7 | 佐 藤 大 介 議員 | (30分) |
| 8 | 保 田 直 美 議員 | (45分) |
| 9 | 丸 岡 孝 文 議員 | (45分) |

□質問時間割当表

10:00	11:00	11:10	11:55	13:00	13:30	14:00	14:10	14:40
9月7日 (月)	館花一仁 (60分)	休憩 10分間	湯瀬弘充 (45分)	休 憩	宮野和秀 (30分)	松村託磨 (30分)	休憩 10分間	兎澤祐一 (30分)

10:00	10:30	11:00	11:10	11:55	13:00	13:45
9月8日 (火)	赤坂 勲 (30分)	佐藤大介 (30分)	休憩 10分間	保田直美 (45分)	休 憩	丸岡孝文 (45分)

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	学校再編と新たな教育環境について (1) 学校再編の目的と基本姿勢について (2) 再編時期の判断基準と合意形成について (3) 児童生徒への移行支援について (4) スクールバス等の通学支援について (5) 市内全小中学校の集約と新校整備について			① 本市が学校再編を進める最大の目的は何か。また、再編によってどのような教育環境を実現しようとしているのか伺う。 ① 各校の児童生徒数、学級数、複式学級の見込み、施設の老朽化、通学条件等を踏まえた再編時期の判断基準と決定手続きについて伺う。また、市内6会場で行った説明会での参加者91人の意見をどのように分類、集約し、いつ公表するのか。さらに、計画への反映結果と反映しなかった理由を示す考えがないか伺う。 ① 統合前の交流学习をいつから、どの程度実施するのか伺う。あわせて、統合後の学級編制、教職員配置、特別支援教育、スクールカウンセラー等による相談支援について、対象児童生徒、実施時期及び検証方法を含む移行計画を策定する考えはあるか伺う。 ① スクールバス等の対象となる通学距離、乗車時間の上限、停留所、運行経路、添乗・安全管理、冬期間、放課後活動及び部活動終了後の便をどのように設定するのか伺う。 また、保護者への基準案の提示時期と運行経費の見通しを伺う。 ① 市内全小中学校の集約について、小学校1校・中学校1校とするのか、義務教育学校とするのか、その学校形態の選定基準を伺う。あわせて、候補地の選定条件、既存施設活用と新設の比較、概算事業費、国県支出金・地方債等の財源及び開校までの工程を、誰が、いつまでに検討し市民に示すのか伺う。	

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

No.2

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2	人口流出の抑制と子育て世帯に選ばれるまちづくりについて			① 転出者の年齢、世帯構成、転出理由及び転出先をどこまで把握しているか伺う。また、人口社会減を令和 12 年度に 285 人減まで改善する目標について、年齢層別の転出抑制数・転入増加数、重点事業、年度目標及び未達成時の見直し方法について伺う。	
	(1) 人口流出の実態把握と社会減目標の実現方法について				
	(2) 保育所再編と子育て世帯への影響について				
3	(3) 子育て世帯の転出抑制と地域医療について			① 八幡平なかよしセンターについて、定員 20 人を下回る見込みが直ちに閉園の根拠となるのか伺う。また、小規模保育事業等への移行、運営形態の見直し、市の財政支援及び機能転換を含む存続案と、閉園案の財政負担支援、施設活用、指定管理及び雇用への影響を比較し、試算と判断基準を示す考えについて伺う。 さらに、幼保小接続の取り組み、学校再編との複合的な影響及び 9 月の説明会の意見を最終判断へどのように反映し、いつまでに結果を公表するのか伺う。	
	人口減少下における財政運営と地域サービスの維持について			① 医療、雇用、子育て、住宅、教育及び交通を子育て世帯の転出抑制策としてどう一体化するのか伺う。また、現在、医療ビジョンの策定を進めているが、医療ビジョンで市内に維持する救急、入院、産科・小児科等の機能、市外受診時の通院支援、相談体制及び実施時期について、どのような内容でいつまでに整備するのか考えを伺う。	
	(1) 学校再編と新校整備の財源確保について				
				① 厳しい財政見通しのなか、新校整備やスクールバス運行等に必要な財源をどのように確保し、子育て、医療、交通等の施策への影響を抑える考えか伺う。	

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(2) 学校再編後の地域コミュニティと地域公共サービスについて			① 学校がなくなる地域ごとに、廃校施設の活用・処分、避難所機能、地域活動の場及び維持管理費を、いつ、誰と協議して決定するのか伺う。また、学校再編、支所窓口機能及び公共施設の集約が、移動距離、災害対応、行政サービス及び地域活動に与える影響を地域別に検証し、公表するべきと考えるが、市の見解について伺う。		

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 災害対策について					
(1) 避難所の備蓄・設備及び避難環境について				① 本市の避難所における食料、水、簡易トイレ、毛布、発電機等の備蓄状況及び空調設備、通信環境、非常用電源の整備状況について伺う。また、女性、高齢者、子供など、多様な避難者が安心して避難生活を送るためのパーテーションや簡易個室等の整備状況と、今後の避難所環境改善に向けた整備方針について併せて伺う。	
(2) 避難行動要支援者への支援体制について				① 本市における避難行動要支援者の把握状況及び個別避難計画の作成状況について伺う。 また、災害時に実効性ある避難支援を行うため、地域住民、民生委員、福祉関係者、自主防災組織等との連携をどのように進めているのか併せて伺う。	
(3) 豪雨災害時における道路冠水と車両水没対策について				① 大雨による河川氾濫や内水氾濫等が発生した場合、道路冠水によって車両が水没、または走行不能となる危険性が高い道路や区間について、本市ではどの程度把握しているのか伺う。 また、危険箇所の市民への事前周知、豪雨時における通行規制の判断基準及び規制体制について伺う。併せて多数の水没車両や放置車両が発生した場合の車両移動、道路啓開及び警察、消防、道路管理者、建設事業者やレッカー事業者等の民間事業者との連携体制について併せて伺う。	
(4) 公共施設再編を見据えた地域の避難所の在り方について				① 今後、学校や保育施設等の再編が進むことによって、現在の指定避難所の配置や地域住民の避難行動にどのような影響が生じると想定しているのか。 また、学校等がなくなる地域においても必要な避難場所を確保するため、公共施設再編と地域防災計画を一体的に検討する考えについて伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
2 子育て・教育環境の将来像について					
(1) 学校再編によって目指す教育環境について			① 学校再編によって、現在の教育環境におけるどのような課題を解決し、子供たちにどのような教育環境を提供しようとしているのか。 また、小規模校が持つきめ細かな教育や地域とのつながりなどの利点をどのように継承しながら、一定規模の集団による学習、学校行事、部活動等の教育環境を充実させていく考えなのか伺う。 さらに、学校再編の先に市が目指す「鹿角の教育」の将来像について併せて伺う。		
(2) 学校再編後の通学環境について			① 学校再編後のスクールバスについて、通学時間、バス停までの距離、運行ルート、冬期間や熊出没時の安全対策等をどのような基準や考え方で検討していくのか。 また、統合の判断を行う前に、各地域から統合後の学校までの通学時間、運行ルート、バス停留所位置等を具体的にシミュレーションし、保護者や地域住民へ示す考えについて伺う。		
(3) 学校・保育施設がなくなる地域への影響と跡地活用について			① 学校や保育施設がなくなることによる地域コミュニティや地域活動への影響に加え、若い世代の居住や移住・定住への影響を市としてどのように捉えているのか。 また、施設の統合・廃止後に初めて跡地利用を検討するのではなく、再編の協議段階から地域住民と跡地活用や地域の将来像について話し合う仕組みを設け、人口減少対策や地域づくりと一体的に検討する考えについて伺う。		
(4) 公立保育所等の再編と今後の保育環境について			① 公立保育所等の再編に当たり、保護者の通勤経路、送迎距離・時間、兄弟姉妹の通学先等、子育て家庭の生活動線をどのように把握し、計画へ反映していくのか。 また、施設を集約することによって、保育士等の人材をどのように配置し、専門職との連携、障がい児や医療的ケア児への対応等を含め、具体的にどのような保育サービスの充実を図る考えなのか伺う。さらに、施設を減らすことだけではなく、再編によって市民が実感できる「保育の質の向上」をどのように実現していくのか併せて伺う。		

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(5) 放課後児童クラブ再編と安全な放課後環境について			① 今後の放課後児童クラブの利用需要について、児童数の減少だけでなく、利用率の変化をどのように見込み、学校統合後も希望する児童を受け入れられる施設規模、定員及び支援員を確保していく考えなのか。 また、児童の交通事故や熊被害等のリスクを軽減するため、今後の放課後児童クラブについては、可能な限り学校内、学校敷地内または隣接地への配置を基本とし、学校再編と一体的に整備を進めるべきと考えるが、市の見解を伺う。		
(6) 子育て・教育環境の将来像と地域バランスを考慮した再編について			① 学校、保育所、放課後児童クラブの再編については、個別の施設再編としてではなく、子供の成長や子育て家庭の生活、地域づくり、人口減少対策等を含めた「鹿角市の子育て・教育環境の将来像」を示し、部局横断で一体的に進める必要があると考える。 また、人口減少や少子化を理由に、学校をはじめとする子育て・教育機能を一部地域へ極端に集約することは、通園・通学の負担だけでなく、子育て世帯の流出や地域コミュニティの衰退など、地域の将来にも大きな影響を及ぼすことが懸念される。 本市の広い市域や生活圏、通学環境、地域コミュニティの維持等を考慮し、学校再編については、将来的に一つの地域へ集約するのではなく、北部地区と南部地区にそれぞれ小学校・中学校を配置することも選択肢として検討すべきと考えるが、市長及び教育委員会の見解を伺う。 さらに、「施設がなくなる地域の将来について今後どうしていくのか」という地域政策まで含め、一体的に再編を進める考えについて併せて伺う。		

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	鹿角市医療ビジョンについて			① 現在、市では 10 年後の医療の姿をあらわす医療ビジョンを策定しているが、鹿角地域の中核病院であるかづの厚生病院は、この先も必要不可欠な存在であると私は考えている。市ではビジョンの中でかづの厚生病院の位置付けや方向性をどのように考えているのか伺う。	
2	森林環境譲与税について			① 令和元年度から令和 7 年度までの森林環境譲与税を財源とした事業とその予算の執行状況について伺う。また、今後の計画はどのようなになっているのか伺う。	
3	耕作放棄地について			① 耕作放棄地は、そばの里づくり等で若干減少はしているが、雑草、カヤ、雑木等で再生不可能な状態である。地主との関係を保ちつつ、また、農業委員会とも打ち合わせながら、製品木（スギ・ナラ等）の植林を行い、森・林づくりをするよう進めることができないか伺う。	
4	本年度の除雪計画と県道 2 路線の廃止等について			① 本年度の除雪対策、各路線、自治会との協議、運転要員等は確保できるのか伺う。 ② 県では本市を通る県道 2 路線（田山花輪線、比内大葛鹿角線）の廃止や管理レベルの引き下げを検討するとのことだが、完全に閉鎖されるのか、市長の認識を伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 山水・井戸水等を利用する地域の生活用水の管理と継承について				① 市営水道以外の生活用水の実態（地域数、世帯数、水源の種類、個人利用・共同利用等）をどの程度把握しているか。 また、先般改正された国の「飲用井戸等衛生対策要領」を踏まえ、実態把握が十分でない場合には影響が大きく、管理継承のリスクが高い共同利用の水源から優先的に確認を進める考えはあるか。あわせて、過去の水道未普及地域の記録や水源に関する資料の有無について伺う。 ② 共同利用の水源について、現在の管理者や後継者の有無を把握しているか。後継者が見つからないまま高齢化が進む地域に対し、市に相談できる仕組みを設ける考えはあるか。 また、水源の位置・配管経路・点検方法等の管理情報を図面や文書とし、市民センターや自治会で保管する等、複数人で共有するよう促す必要性をどのように認識しているか。さらに市がそのように働きかける考えはあるか併せて伺う。 ③ 水質管理について、検査の必要性や注意事項、検査機関・費用の目安等の情報提供を現在どのように行っているか。特段の周知を行っていない場合、飲用に供する場合は特に検査が必要となることなど、基本的な注意事項を周知する考えはあるか伺う。 ④ トラブルが起きる前に、利用者が自らの水源を確認できるよう予防的な情報提供を行う考えはあるか。 また、管理者・後継者の有無、水源や配管の場所の把握、記録や管理方法の共有、水質の定期確認、故障時の相談先等を整理した簡易な水源管理チェックリストを作成・周知し、自治会や地域の集まりで話し合うきっかけとする考えはあるか伺う。 ⑤ 水が止まる前の段階での不安（管理者の高齢化、後継者未定、水源の維持への懸念等）についても受け止められるよう、トラブルが起きてからでなくとも相談できる旨を利用者に周知する考えはあるか。また、広報紙・ホームページに加え、自治会を通じた案内など、実際に水を利用している方へ届きやすい方法を併せて検討する考えはあるか伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 地域公共交通と住民ニーズの把握について				① 八幡平地域以外で新たな地域交通を検討する場合も、ワークショップ等の住民協議を通じて運行方式・運行時間・運行曜日・利用範囲等を検討していく考えがあるのか。高齢者の通院・買い物に限らず、中高生・子育て世帯・働く世代等のニーズを幅広く把握し、参加しにくい方の声も拾えるよう世代や属性ごとの聞き取り調査を併用する考えはあるか伺う。 また、どのような声をどこから集めるのかを事前に明らかにし、ワークショップの後も日頃から継続的に意見を出せる仕組みとすることは可能か。 ② ワークショップには、高齢者だけでなく中高生・保護者・子育て世帯・働く世代・障害のある方等が参加し、自らのニーズを伝えることは可能か。特に中高生の通学・部活動・習い事等の移動や保護者の送迎負担を、意見として提出し、運行設計の検討に反映することは可能か。 また、学校を通じた意見聴取や保護者が集まる場での聞き取り、開催日程の複数化等の工夫を行う考えはあるか併せて伺う。 ③ 地域公共交通を運行していない時間帯や曜日の需要は、利用実績の分析では把握できない。現在の運行時間や曜日で利用できなかった市民の移動ニーズについて、ワークショップ等で出された意見を基に、地域交通の設計に反映することは可能か。 また、潜在的な需要を把握する方法について、未運行の時間帯・曜日に関するアンケート調査などが考えられるが、具体的な方法も含めて示されたい。 ④ 自治会等を通じた情報発信が中心では、中高生や若年層、子育て世帯に参加を募集していることそのものが伝わっていない。学校を通じたチラシの配布、SNSの活用、子育て支援施設への掲示など、自治会経由以外の周知方法を工夫する考えはあるか。 また、保護者に対し、通学・部活動・送迎・休日の移動等についても意見を聞きたいと具体的に示しながら参加を呼びかける考えはあるかも併せて伺う。 ⑤ ワークショップ等で出された意見はどのようなプロセスで運行設計に反映されるのか、実現が困難な場合の理由や採用・不採用の判断基準、検討の経過を住民に分かりやすく示す考えはあるか。 また、参加方法・意見の届け方・検討可能な事項をまとめた資料を示すなど、住民参加の入口づくりをどのように進めるのか伺う。	

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1			災害発生後の対応について	① 本市では、他の自治体からの人的支援やボランティア等受け入れのための受援計画を策定しているか伺う。 ② 計画は、防災担当課だけでなく、災害時に必要な各部局も参加して作成したものか伺う。 ③ 被災自治体では、「何の業務に、いつまでに、何人必要か」明確になっていることが求められるが、その体制はどうか伺う。 ④ 応援要請を判断する基準と要請ルートはどうなっているか。判断する責任者は誰か、また、夜間や休日に災害が発生した場合であっても、連絡先と要請手続きが機能する状態になっているか伺う。 ⑤ 能登半島地震では、応援職員の執務スペースやネットワーク環境などが課題となった。応援職員が到着した際の、受付、配置、業務指示等、誰が行うのか決まっているか伺う。	
				① 認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深めるため、行政が軸となり、小中学校の児童生徒、地域の企業・経済団体や自治会等と連携して、認知症サポーター養成講座の更なる展開や「新しい認知症観」を定着させる啓発資料の作成配布など、認知症に関する知識及び理解を深める取り組みを強化すべきと考えるが、見解を伺う。 ② 今、全国の認知症と軽度認知障害の方を合わせると 1,000 万人を超える状況と言われている。そのため、認知症の方や家族等が安心して暮らせる生活環境が必要である。実際に記憶障害や認知障害が起こる中で、当事者の家族の不安から、行動・心理症状（ＢＰＳＤ）が発生し、それまでの家族関係が損なわれることも少なくない。 それらの対策に効果的な技法として、「ユマニチュード」が注目されている。 認知症の人と家族等の尊厳ある暮らしを守るため、ユマニチュードの普及に積極的に取り組むべきと考えるがいかがか。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
				③ 認知症の当事者や家族等が診断後早い段階で、同じ経験をした方々との情報共有や、様々なアドバイスを受けられるよう、インターネットによる交流も含めた、地域における認知症ピアサポート環境の整備も重要と考えるが、見解を伺う。 ④ 今後、増加することが懸念される認知症の行方不明者対策として、GPS端末の積極的な活用に向けての負担軽減策の実施や、衣服等に貼れるQRコードが記載されたシール等の普及など、認知症の行方不明者一人一人の生命を守るための取り組みを推進すべきと考えるが、見解を伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	スポーツ施設の環境整備とスポーツを活用した観光戦略について (1) 総合運動公園施設の老朽化について (2) スポーツ施設・避難所の暑熱対策について (3) スポーツイベントの観光戦略への取り込みについて			① アルパスを含む総合運動公園では、テニスコートの老朽化や駐車場白線の消失など、利用者から施設環境の改善を求める声があるが、状況を把握しているか伺う。 ① 近年の猛暑を踏まえ、アルパスや記念スポーツセンターなど屋内体育施設における暑熱対策も重要な課題である。固定式空調を全施設に整備することが困難である場合でも、除湿性能・冷却機能・風量・可搬性を備えたスポットクーラー等を防災備品として整備し、スポーツ大会時や避難所開設時に柔軟に活用することが現実的ではないか。空調導入についての考えを伺う。 ① 浅利純子杯駅伝、サッカー大会、バスケットボール大会など、多くの来場者を集めるスポーツイベントが開催されているにもかかわらず、飲食、物販、観光案内、市内店舗への誘導など、地域内消費につなげる仕組みが十分とは言えない。スポーツイベントを観光戦略の一部として位置付け、地域経済への波及効果を高める考えはないか伺う。	
2	冷涼な気候を生かした「避暑滞在戦略」について			① 気候変動により全国的に猛暑日、酷暑日が増える中で、鹿角市の冷涼な気候は新たな地域資源になり得ると考える。実際に、スポーツ大会等で関東方面から来訪された方が、鹿角市の空気のおいしさや涼しさに感動されている場面に接し、夏の過ごしやすさそのものが観光や滞在の価値になる可能性を感じた。 そこで、鹿角市の冷涼な気候を「クールかづの」とも言える新たな政策の柱として位置付け、避暑、ワーケーション、短期滞在、二地域居住などにつなげる戦略を検討できないか伺う。 また、空き家を避暑や短期滞在向けの民泊・滞在施設として整備する所有者に対し、改修費や設備整備を支援することで、空き家対策、交流人口の拡大、地域内消費の獲得を一体的に進める考えはないか伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	中学校部活動の地域展開について (1) 本市における進捗状況と今後の取り組みについて			① 生徒数の減少によるチーム形成の困難化対策、教職員の負担軽減を目的に、政府は令和4年に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を示し、令和6年度には本市の「中学校部活動地域移行推進計画」を策定し、地域移行を進めてきているところである。中学校部活動の地域移行に関して、本市の現状は今どこまで進んだのか。その現状と将来への道筋をどのように描いているのか伺う。	
	(2) 大会への遠征費支援について			① 大会等での成績によっては、上位大会に参加することが可能かと思うが、公的な遠征費支援で生徒の大会参加を支えることは、生徒のチャレンジを支援する意味でも大事なことと考える。地域移行期間中の過渡期ではあるが、市当局の遠征費支援の今後の方向性について伺う。	
2	鹿角高等学校魅力化推進事業と大会遠征費支援について			① 鹿角高校はスポーツ活動・文化活動ともに昨今活躍が顕著である。義務教育の枠を超えて、鹿角高等学校魅力化推進事業の一環として大会遠征費等への財政支援を行う考えがないか伺う。	
3	保育園等の統合に伴う指定管理者との調整について			① 先日公表された公立保育所等再編計画（素案）について、出生数が想定以上に減る中においてはやむを得ない部分もある。 一方で、保育士の将来的な処遇については大変憂慮しているところである。 保育士の中には、市職員の保育士、指定管理者雇用の保育士など、背景の異なる職員が在籍している上、指定管理者には貴重な若い人材が多く在籍していることもあり、再編計画と併せて保育士職員の処遇についても、市当局として親身で丁寧な対応を求めたいと考えるが、市長の見解を伺う。	
4	公務職場としての市役所の魅力向上について (1) 市職員の採用状況等について			① 来年度に向けて今年も市職員の採用募集が始まっているが、ここ数年の応募と採用の状況など、職員数は計画通りに進んでいるのか伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5		リチウムイオン電池等の試験回収の結果について	(2) 時差出勤制度の導入について	① 公務職場としての市役所は地域でも優良な職場だと感じる。地域出身者をはじめ多くの新卒人材にも注目してもらいたいものである。 そこで魅力向上の取り組みの一つとして「フレックスタイム制」の導入を提案したい。 県内では、今年度、大仙市役所が実施しており、1～2 時間程度の時差を設けたようだが、利用する職員も多く、働きやすさにつながっているようである。 制度の導入について、市長の見解を伺う。	
				① 8 月の約 1 ヶ月間実施した試験回収について、どのような結果となったか伺う。 ② 試験回収結果から見えた課題と今後の方向性について伺う。	

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	保田 直美	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 本市の「デジタル教科書」導入における教育のデジタル化の在り方とその問題について					
(1) デジタル教育の導入における学習の質への影響認識と基本方針について			① 本市において、現在G I G Aスクール構想等に基づくデジタル機器の活用はどの程度進んでいるか。また、授業における使用時間や頻度はどのように把握しているのか併せて伺う。 ② デジタル機器の長時間使用が児童生徒の集中力、読解力、思考力に与える影響について、どのように認識しているのか。 また、デジタル化の推進を前提とするのではなく、「学習の質の維持・向上」という観点から、紙教材との役割分担をどのように位置付けているのか、市の基本的な考え方を伺う。		
(2) デジタル教科書導入における発達段階・教科特性を踏まえた具体的運用について			① デジタル教科書は2030年度以降に正式な導入が予定されており、その運用は自治体の判断に委ねられていると認識している。本市としては、紙のみ、デジタル、あるいは「ハイブリッド」を、学年や各教科ごとにどのように使い分けるのか。デジタルが適する領域と紙が適する領域をどのように整理しているのかを伺う。 ② デジタル教科書の使用教科・学年の判断にあたり、発達段階や教科特性、学習への影響等について、どのように検討が行われているのか。その検討についての判断基準は明確に定められているのか伺う。 ③ 紙とデジタルを行き来する「ハイブリッド型授業」について、児童生徒の理解力や集中力の低下が指摘されているが、現場での実態をどのように把握しているのか。 また、手書きの機会の減少による書く力や考える力への影響について、どのような評価を行っているのか伺う。 ④ 発達段階・教科特性に応じた具体的な使用ルールやガイドラインの策定について、市の今後の方針を伺う。		

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	保田 直美	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(3) 教育のデジタル化に伴うリスク管理と統制の在り方について			① 学校におけるデジタル機器の日常的な使用環境の整備が、児童生徒のデジタル機器との接触時間や生活全体における距離を縮めることにより、SNS利用やゲーム依存、いじめ等の逸脱行動を誘発するリスクについて、本市としてどのように認識し、評価しているのか。 また、視力低下や健康面への影響について、どのようなモニタリングや対策を講じているのか伺う。		
2 鹿角市における再生可能エネルギー設備及びIoT機器のサイバーセキュリティ対策について					
(1) 本市の事業用再生可能エネルギー設備への対応について			① 本市は、市内に設置されている事業用太陽光発電設備及び蓄電設備について、設置数、設置場所、設備容量または蓄電容量、事業者名等を資料や届出により、どこまで把握しているのか伺う。 また、通信機能や遠隔監視・制御機能を持つ関連機器が使用されているか。そのメーカー、型式、遠隔操作の主体等を把握できる制度や資料はあるのか伺う。 ② 2027 年度から送電網に接続する一定の太陽光発電設備及び蓄電設備について、JC-S-TARを取得した通信・制御機器の使用が系統連系要件となることを、本市はどのように認識しているのか。 また、市内事業者や土地所有者から相談があった場合どのような機関へ案内するのかを伺う。		
(2) 自治体が保有・利用するIoT機器の管理とサイバーセキュリティ対策について			① 本市が導入しているIoT機器は庁舎、学校、市民センター、避難所、上下水道施設など様々な公共施設で使われている。本市の情報セキュリティポリシー等において、防犯カメラ、各種センサー、施設管理装置、上下水道の監視制御装置等のIoT機器は、情報資産または管理対象としてどのように位置付けられているのか伺う。 ② 本市が保有または利用するIoT機器について、設置場所、所管課、製品名・型式、管理責任者、接続するネットワーク、外部通信先、保守事業者、ソフトウェア更新期限等を記録した情報資産台帳を整備しているのか。各部局の機器をどのように把握しているのか伺う。		

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	8	質問者	保田 直美	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
				③ 総務省の地方公共団体向けガイドラインにおいて、I o T機器に必要な情報セキュリティ対策を確認する方法の一つとしてJ C－S T A R適合ラベルが示されている。本市は、用途と危険度に応じ、J C－S T A R適合製品を調達時の確認事項または要件とする考えはあるのか伺う。	

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	市長の 8 月 24 日定例会見での保育所等再編の発言について			① 今回の公立保育所等再編に関する市長の記者会見での発言には、重大な問題があると受け止めている。 第一に、保育士などの処遇について「指定管理なので、市としては統合後の勤務先に関わる立場ではない」と述べた点である。しかし市長は、指定管理者である鹿角市こども未来事業団の理事長であり、保育士・児童クラブ職員の雇用主そのものだ。その立場で「関わらない」と言い切るのは、雇用責任を理解していない極めて不適切な発言であり、働く人の意欲をそぎ、子育て環境にも深刻な影響を及ぼしかない。 第二に、保育施設再編という重要政策について、記者からの「市長が担当部署の職員たちにやってくださいと指示したのではなく、自然発生というか、職員たちからの提案だったのでしょうか」という質問に対し、肯定する回答を行っている点である。保育園の再編は市政の根幹に関わる重大施策であり、市長決裁なしに進むことは制度上あり得ない。それを「正式な指示として考えてって、言ったかどうかはちょっと覚えていない」と説明するのは、政策決定の重みを理解していないと言わざるを得ず、責任の所在がまったく見えない。このような曖昧で軽い発言が続く限り、今後提案される市の将来に関わる案件を真剣に審議しようという気持ちが失われるほどであり、市長の説明姿勢に強い懸念を抱いている。 以上の点について、市長の責任認識と明確な説明を求める。	
2	2027 年 4 月からの消費税減税による当市の農業環境への影響について			① 鹿角市の農家のうち、免税事業者は相当数を占めると推計される。これらの農家は、販売時の消費税が手元に残る「益税」が経営の一部を支えてきたが、今回の減税により益税が縮小し、収入減が避けられない。鹿角市内の農家のうち、免税事業者が占める割合を市として把握しているか。また、減税による益税縮小がどの程度の収入減につながると見込むのか、市の試算や影響分析を伺う。	
	(1) 飲食料品の消費税減税に伴う市内個人経営農家への影響と市の対応について				

令和8年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3		風力発電に関わる鹿角市環境保全審議会の審議について	(2) 農家の高齢化・離農リスクの増大への市の認識について	① 鹿角市は、農家の多くが家族経営の小規模農家であり、農業就業者の高齢化が進み、担い手不足が顕在化している。市の基幹作目である米作は、肥料高騰・燃料高騰・米価下落が重なり、経営の不安定化が進んでいる。今回の減税による収入減は、高齢農家の離農加速、耕作放棄地の増加、農地保全の悪化につながる可能性が高い。市として、減税が離農を加速させる可能性についてどのように受け止め、そのうえでどのように対策するのか、また、果樹等他の作物農家を含めた考えがあるか伺う。	
			① 風力発電事業に関わる環境アセスメントについて今までしっかりとした根拠に基づく精査を行ってきたものと信じていた。しかし、審議議事録を確認する限りでは、環境保全審議会が当市の風力発電事業に係る環境影響評価制度の目的を果たしていないように見受けられる。このことをどのように認識しているのか。 また、方法書・準備書の審議において、審議会が本来果たすべき「環境影響の技術的審査」という役割を行政としてどのように整理し、具体的に委員へ周知しているのか。 さらに、次に控える準備書審議では政策論ではなく、市長が述べる科学的根拠に基づく環境影響評価を行い、市として明確な指針の下に意見や是正の求めを示すべきではないかと考えるが、見解を伺う。		
			4 市長の風力発電事業賛否についての「中立」発言について	① 令和6年9月及び12月の私の一般質問に対する当局答弁は、議事録に記録された「行政の公式見解」とであると理解してよいか、明確に伺う。 ② 議会答弁は行政の公式発言であり、訂正・撤回・修正が行われない限り、行政の立場として現在も有効であると理解してよいか伺う。	

令和 8 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	9	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5 今期の除雪計画とそれに伴う自治会・市民への協力依頼や周知体制、降雪期への準備状況について				③ 令和 6 年の答弁では、風力発電のメリットを積極的に説明し、事業者に協力を依頼し、「住民理解を得ながら進めることが重要」と述べ、計画段階環境配慮書では「影響を低減できない場合は配置や基数の再検討」と、事業実施を前提とした意見を付している。これらはすべて「事業受入れを前提とした行政姿勢」と受け取れる内容である。 一方、市長は「中立である」と説明している。過去の公式答弁が現在も有効であるなら、市長の「中立」発言と論理的に整合しないと考えるが、市の見解を具体的に示されたい。 ① 除雪オペレーターの確保状況と、除雪を行わない市道の選定状況について伺う ② 自治会長会議で、市から自治会に「協力をお願いする」との話があったが、何をどの程度協力してほしいのか。自治会が市からの協力内容を検討し住民へ周知や準備できるよう、早期の計画公表が不可欠と考えるが、具体的な内容をいつまでに提示するのか伺う。 ③ 市民が除雪等協力するにしても、近隣に雪寄せ場・雪押し場が無い場合は除雪が困難となる可能性が高いが、現時点での雪寄せ場・雪押し場の確保状況と、確保が困難な地区への対応方針をどのように考えているのか伺う。	